

カウンセリングのお作法 第39回

CON

Counseling Office Nakajima

カウンセリングオフィス中島 中島(水鳥)弘美

～家族カウンセリングの関係機関 病院・学校～

今回は、家族面接二回目のすすめ方について話しました。今回は、前回のなかで少し触れた、家族カウンセリングの関係機関について話します。

関係機関からの紹介による家族カウンセリング

家族カウンセリングの相談に来られる方は、直接、希望をして申し込まれる方は少なく、どなたからかの紹介があって、来所されることが多いです。つまり、関係機関において家族カウンセリングが適していると判断され、効果的な支援であると説明を受けて、カウンセリングにつながります。

関係機関である医療機関は、おもに精神神経科クリニック、学校は、私立の小学中学高校、公立の学校です。

病院からの紹介

病院からの紹介は、医師から患者家族に通うようにすすめられます。

治療支援方針は、投薬による治療は医療機関が行い、家族カウンセリングは専門相談機関と、役割分担をして家族を支えるスタイルがあります。また、投薬治療等がひとくぎりつき、カウンセリングに集中することが適切と判断される場合、そして、投薬治療よりも、家族カウンセリングが適していると考えられる場合です。

以上のような場合は、医師の診療情報書類(=紹介状)が専門相談機関に提供されます。

紹介状は初回面接のときにご家族から受け取り、その内容を確認し、申し込みの時点でご家族から事前に聞いている情報とあわせて、希望を聞きつつ、支援の方向性を決めます。

初回面接が終了すると、担当の医師あてに、紹介礼状とともに来所時のメンバーと様子、今後、どのぐらいの間隔で面接をする予定であるかについて明記して、報告をします。このようなやり取りをして、医療機関との協力体制を構築していきます。

学校からの紹介

近年、在籍している学校でスクールカウンセリングを受けることができるようになりました。そのため、学外の相談機関に紹介することは少ないようです。しかし、継続して支援を受けることができないような場合、たとえば、学校のスクールカウンセラーが男性なので、なかなか話せない、話がしにくいと生徒さんが感じているため、女性のカウンセラーが適していると担当カウンセラーが判断した場合、また、学校内のカウンセリングよりも家族支援、家族全体の協力が必要であると考えられるような場合に、家族カウンセリングをすすめられて、相談に来られます。

学校からの紹介は、事前に教員や担当カウンセラーなどから、空き時間、費用等の確認や受け入れ可能かどうかなどの問い合わせがあることが多く、相談機関の様子を示した紹介用のパンフレットなどを案内します。そのうえで、学校側から家族に説明等があり紹介につながります。

学校訪問して協力体制づくり

家族が来所して、初回面接が終わると、カウンセラーは学校訪問の準備をします。

学校訪問とは、相談機関から子どもさんの所属する学校に連絡をとり、紹介者である教員、担当カウンセラー、クラス担任、学年主任、保健室の先生など、生徒さんとかかわりのある人とコンタクトをとるのです。

一方、ご家族側にも、学校の先生と協力をして支援することを伝え、学校関係者と連絡をとること、つまり、学校訪問や電話等などをするごとの了解を得ます。

このように、家族、学校、相談機関の三者が情報を共有し協力体制を整えて、生徒さんとそのご家族を支援する土台システムを作り上げていきます。

学校訪問の際には、いま課題をかかえている生徒さんとそのご家族の情報とともに、進級の条件等のルールなどを教えていただくこともあります。補講が必要な状態であるとか、カウンセリングに通うことが改善努力と認められ、配慮されるようなルールがあるなど、学校独自のルールを得ることができます。

また、教室内に入ることがむずかしい場合には、別室登校の可能性など、生徒さんが登校しやすい環境の確認など、登校の敷居を低くするアイデアなども意見交換することができます。

生徒さんと同じ通学路を歩いてみる

学校訪問は、学校関係者との連携を築く機会ですが、生徒さんやご家族が面接のときに話をしておられた内容、たとえば通学環境などについて実感することもできます。

「朝、通学路の急な坂道がづらい」とか、「駅から学校が遠すぎるので登下校で疲れる」などの話が語られると、夏の暑い時期や、冬の寒さの中での登校の負担の意味が、「このことだったのか」とわかり、学校の周囲の環境、通学から受ける影響など、生徒さんの話の理解を深めることができます。

「あの坂道はかなり急ですね」「駅から遠くてなかなか学校につかないね」などと、二回目の家族面接で話しながら、学校訪問に行ったという報告をご家族にします。

紹介者との関係

病院や学校などの関係機関との連携の重要さは以前から注目されています。

支援を考えると、面接室でご家族と向き合うためのスキルを磨いてゆくことももちろん欠かせないことです。しかし、目の前の支援だけでなく、関係機関との安心できる協力体制があって、初めて効果的な支援に結び付くと考えられます。

関係機関などというと、やや硬い表現になりましたが、関係機関に属しておられる紹介者の先生方、学校の先生方、カウンセラーと直接お会いしたり、連絡を密にとるつながりが、来所される家族との信頼関係に大きく影響してくると思います。